

6 章

交通違反防止および違反常習者の更正プログラム

6章 交通違反防止および違反常習者の更正プログラム

アメリカでは、交通違反件数を減らしたり事故の被害程度を軽くすることを目的とした様々なプログラムが考案されている。こうしたプログラムを通じてコミュニティ・レベルの努力がおこなわれた結果、この15年間で、交通事故による死亡者数や重大事故の件数は大幅に減少した。

たとえば飲酒運転に関しては、MDD (Mothers Against Drunk Driving: 飲酒運転に反対する母親の会) やSADD (Students Against Drunk Driving: 飲酒運転に反対する学生の会) のようなボランティア組織による防止プログラムをきっかけに、多くコミュニティで同様の活動が行なわれるようになった。

裁判所や司法省も、さまざまな違反に対応した罰則や規制の強化策を打ちだしている。

プログラムの中でも特に効果的だったのは、a) 警察による取締りや罰則の強化、b) マスメディアを通じた広報、c) 教育、d) セラピーや医学的治療などの方策の中から、いくつかを組み合わせて実行するものである。

1. 政府の施策

現在、多種多様なプログラムが連邦政府によって実施されている。しかしこのようなプログラムは、もともとどこかひとつの州で考案され、後に他の州でも取り入れられたケースが多い。以下に、具体的なプログラムの例をいくつか紹介する。

(1) ケンタッキー州のケース

ある都市で、スピード違反、交差点での事故、わき見運転、信号無視などといった交通事故が多発した。市当局は事故率を引き下げするため、警察による取締りの強化と広報活動を併用した。まず、警察内部に交通違反を取締るための特別部隊を編成した。この部隊は派手なマークつきの人目につきやすい車を使用し、軽微な違反も見逃さず停止させた。また道を封鎖して任意に車を止め、飲酒量のチェックを行なった。地元の学校と酒店が警察

に協力し、悪質な運転に対する取締りと罰則の強化について、指導した。人目につきやすい交通警察部隊のパトカーは、またたくまにドライバーに認知された。そのため危険な交差点近くに停まっているだけでも、充分交通違反の抑制に役立った。その効果は、車内に警察官が乗っていない時でさえも同じだった。

（２）テキサス州のケース

学校の春休み中に、「安全運転推進・飲酒運転禁止」をうたった広報活動が、州全体で実施された。大学や高校のキャンパス、職場、家畜競技会、ロデオ会場、高速道路のサービスエリア、地元の商工会議所など、様々な場所にブースを設け、安全運転をPRした。また様々なメディアを利用したキャンペーンも行なわれた。その結果、この一ヵ月間の飲酒運転による衝突事故件数は、前年に比べて18%も減少した。

（３）テネシー州のケース

州の更正センターで、飲酒運転者のための教育、アルコール中毒者のための匿名集会、および「モラル・リコネーション」とよばれる心理療法を組み合わせたプログラムを展開している。リコネーション療法とは、倫理感を高めるために考案された療法である。倫理観の低い人ほど、衝動的で快感を求める行動や、反社会行為にはしりやすいのである。そこでこのような倫理感の低い交通違反者に対し、自らのとった行動の結果についてより深く考えさせるためのセラピーを実施したのである。このプログラムによって、地域の飲酒運転の再逮捕率は5%減少した。

（４）ニュージャージー州のケース

ニュージャージーにおける、飲酒運転者のための対策プログラムは、制裁と強制的な教育または治療を組み合わせたものである。違反者は全員罰金を支払い、免許停止となる。場合によっては、刑務所に送られることもある。さらに教育コースか、地域のアルコール乱用治療施設、またはアルコール中毒者の匿名の集会に出席しなければならない。指定された教育コースや治療を完了できない者は、運転免許を無期限に剥脱される。このプログラムの結果、飲酒運転常習者の再逮捕者は減少したものの、交通事故や交通違反の件数は変わらなかった。

(5) ミネソタ州のケース

ミネソタ州には、飲酒運転の常習者のため、段階的なプログラムを設けている。刑罰と監督と治療を組合わせたプログラムである。飲酒運転による有罪判決を三回以上受けた者は、まず60日から90日間刑務所に送られる。次いで一定期間——通常は5～6週間——外出禁止とされ、最終段階は保護観察下での生活になる。このプログラムは、常習者のアルコールや薬物に対する依存度を判断し適切な治療を行なうのに利用されるとともに、アルコールおよび薬物使用の監視にも役立っている。プログラム終了後もさらに教育を要する常習者や失業中の者には、教育や職業訓練も施している。非常に厳しいプログラムのため、全体の約20%が途中で落伍しているが、プログラムを完了できた場合、飲酒運転で再逮捕される者は約8%に過ぎない。一方プログラムを終了できなかった者は、40%が再び逮捕されている。

(6) グループ療法

飲酒運転の治療に、グループ療法を用いている州が多い。画期的飲酒運転防止プログラム(The Creative Intervention Alcohol Awareness Program)とよばれるプログラムでは、集中的グループ療法を行なっている。このプログラムの基本的な考えは、自分が抱えている問題に対する受け身な態度が、過度の飲酒を引き起こすというものである。参加者は、飲みすぎの原因となる消極的な考え方を変える方法を学んでいる。グループによる話し合いや訓練を通じて、人々は、飲酒に関連する問題への対処法を認識し、理解を深める。20週間のコースに参加した人々の場合、その後の5年間の再犯率は、わずか1%だった。

(7) ドライバー教育

軽微な交通違反者に対しては、「安全運転教育」のプログラムを設けている州が多い。すなわち、違反キップを受け取ったドライバーが、自分で罰則を選べるシステムである。単純に罰金か免許停止のどちらかを選択する方法もある(違反をすると保険の掛け金が高くなる方式をとっている州もある)。これ以外に、ドライバーの再教習コースを受講するという選択肢が与えられている。このコースを終了すると、罰金が減額され、保険の掛け金の値上げもされずにすむ(ただしそれまで交通事故を起こしていない場合)。また減点も免除

される。

画期的効果をあげた事例の研究——メリーランド州でのケース

ここでは、これまでに示した数々のプログラムのうちいくつかを併用することにより、実際に飲酒運転を減少させる効果をあげたメリーランド州の事例について、検証する。

<背景>

メリーランド州プリンスジョージ郡では、郡当局と一般市民の協力の下に、法的制裁と治療を組合せた「飲酒および薬物使用時の運転（Driving while Under Influence alcohol or drugs）防止」のためのプログラムを展開し、常習犯を減らそうとこころみた。

1983年当時、プリンスジョージ郡では、飲酒および薬物使用時の運転（DUI）による逮捕者の実に48%が同様の犯罪を繰り返して逮捕されており、その数があまりにも多いため、裁判所で処理し切れない程になった。郡当局は、従来の拘置刑だけでは抑止効果があがらないと考え、更正施設と医療機関を兼ねた新しい施設を設立し、プログラムを実施した。地元の行政機関および警察、裁判所、地域のリーダーも、このプログラムに協力することとなった。

1985年には、DUIによる違反者専門の医療施設が建設された。このプログラムのための基金として、郡が50万ドル、メリーランド州も50万ドルを提供した。しかし、有罪判決を受けこの施設に送られた違反者に、毎日36ドル支払うことを義務づけたため、施設の運営費用はそれによって賄われ、資金を追加する必要がなかった。

<施設の運営>

施設の管理は刑務所が行い、治療は衛生局が行なう。この施設の最大収容者数は、男性50名、女性10名であった。DUIによる違反常習者は、裁判所の判決により、最長28日間施設に収容される。そして毎日、アルコールや薬物依存に関する講義をきき、グループ討論に参加させられる。さらに、アルコール中毒者のための匿名集会に参加し、そこで生活習慣を変えるための支援グループに入る。違反者の家族も、プログラムに参加することをすすめられ、違反者とともに家族カウンセリングに参加す

ることも可能である。28日後あるいは治療終了とともに、違反者は1年間の保護観察つきで釈放されるが、保護観察期間中は治療に通い続ける。

<成果>

1985年から1991年の間に、4500人の違反者が、このプリンスジョージ郡DUI施設プログラムを終了した。プログラムは、画期的な効果をあげた。開始当初の3年間で、違反者の再逮捕率はわずか8%にまで減少した。同じ時期にメリーランド州内で施行された別のプログラムの結果によれば、飲酒や麻薬使用運転常習者の治療プログラムを受けた者の35%が、再び違反を犯している。そのため全米の多くの州や郡が、プリンスジョージ郡のDUI施設をモデルとして参考にしている。

2. コミュニティ・レベルの予防策

(1) 未成年の飲酒防止

未成年の飲酒は、交通事故の主な原因のひとつにあげられる。そのため、コミュニティ・レベルの交通違反防止プログラムには、未成年による不法なアルコール購入に焦点を当てたものが多い。地域の商店主にも協力を依頼し、ポスターを掲示したり、クーポンを配ったり、未成年者の飲酒の危険性をうったえるビラを配ったりしているプログラムも多い。未成年者のアルコール購入を防止するため、酒店に警察官を配置するプログラムを実施している地域もある。また、「おとり捜査」を活用している地域もある。見た目の若い警察官が、私服で偽の身分証明書を使い、アルコールを購入するという方法である。おとりの警官にアルコールを売った場合、その店はアルコール類の販売権を取り消されるか、すべての購入者に対して年齢チェックをするよう命じられる。

(2) 交通事故に対する認識の改善

ミズリー州で行なわれている、交通違反者向けの1日プログラムのようなキャンペーン活動の事例もある。このプログラムでは、受講者に、交通事故の深刻な結果を示す。事故によって重大な被害を受けた人の話を聞いたり、事故の状況と、その事故で障害を負った

被害者についてのビデオで見たりする。

オートバイの安全性や、安全な運転コースに関する教育プログラムを実施している地域も多い。

また、小切手やバスの表示、スーパーの買物袋などに、安全標語を印刷する方法も、よく使われている。標語の内容は、シートベルトの着用をすすめるもの、飲酒運転への警告などが一般的である。

3. 学校による防止策

(1) 自動車の安全性

学校における交通違反防止プログラムは、運転のできる高校生を対象とするものがほとんどだ。たとえばバーモント州の学校では、「高校生を救え」と呼ばれるプログラムを考案した。このプログラムの目標は、高校生に飲酒や薬物使用をさせないことである。高校生は、安全運転を約束する契約書にサインをする。そして1年後、契約書にサインした高校生全員の中から、抽選で1名が選ばれて、新車をもらえるというシステムである。いうまでもなく、契約を破った者は抽選に参加できない。

(2) 自転車の安全性

自転車の事故は、アメリカの若者の怪我や死亡の主要原因の1つである。テキサス大学オースティン校では、安全で効果的な自転車操縦法を普及させるプログラムを開発した。自転車ロデオ大会を開催し、バランスと操縦法のコンテストを行なったのである。大会にあわせて、大規模な安全キャンペーンも行なった。プログラムの目的は、自転車に乗る人々に安全で効果的なサイクリングを推奨するとともに、自転車のための安全情報を行き渡らせることにある。

4. まとめ——プログラムの成果に関する概括

交通違反防止プログラムの有効性を確認する調査は、飲酒運転のような重大な違反者に関するものがほとんどである。調査の結果によれば、免許停止や刑務所拘置など従来の刑罰は通常のドライバーには有効だが、違反を繰り返す人——特に飲酒運転の常習者にはあまり効果がないようだ。再犯者の減少させるためには、単に刑罰を与えておしまいというのではなく、教育、免許停止、心理療法やカウンセリング、継続的な監視などいくつかの手法を併用し、複合的アプローチを図る方が、はるかに効果的である。

治療プログラムに関しては、個々の違反者のニーズにあわせて、個別に行うべきだとの指摘がある。

調査の結果、いくつかのアプローチを併用することにより、再犯者を20%程度まで抑えることが可能であることがわかった。

治療プログラムでは、裁判所と治療センターが協力して、プログラムの実施にあたるとより一層効果的である（例えば、常習犯に対する判決、追跡および監督などを一貫して行なうプログラムなど）。

<参考文献>

"An Assessment of Drunk Driving Policies in Texas and Other States."
Lyndon B. Johnson School of Public Affairs Policy Research Project Report,
Number 69. The University of Texas, 1985.

Price, Erica J. Local Officials Guide to Drunk Driving Prevention.
Washington, D.C.: National League of Cities, 1993.

Web Resources: The National Commission Against Drunk Driving has
published a number of pamphlets on practical programs. They are available
free at www.ncadd.com:

"Alternative Sanctions for Repeat DWI Offenders"

*"An Evaluation of the Effectiveness of Alcohol Treatment, Driver
License Actions and Jail Terms in Reducing Drunk Driving Recidivism
in California"*

*"Attitude Changes in DWI Offenders: A Study of a Short-Term
Treatment Program"*

*"Combating Hardcore Drunk Driving: A Source Book of Promising
Strategies, Laws, and Programs"*

"Creative Interventions for DWI Offenders"

*"Effects of Combining Sanctions and Rehabilitation for Driving Under
the Influence: An Evaluation of the New Jersey Alcohol
Countermeasures Program"*

*"Treating Drunk Drivers with Moral Reconation Therapy: A Two Year
Recidivism Study"*

*"What the Research Says About Treatment Effectiveness and ways to
Apply this Research"*